



お茶の間に語り継いでください！
「会津たかさと」の思い出。
記念品袋には、ひめさゆりのコーサー
ジュ、紙人形や箸置きなど、村民手
づくりの品々も詰まれました。



好評だった村民手作りの演技！
マーチングバンドや大合唱で歓迎。
保育所の鼓隊、小学生の合同バンド、
村民コーラスふれあいなどの合唱で、
開会式を華やかに彩りました。



第7回開催から43年ぶり！
秋晴れの阿賀川に236クルー集結。
開会式は高郷中学校グラウンド。選手
や監督、役員関係者ら1076名が集い、
健闘を誓い合いました。



第50回国民体育大会漕艇競技会の
会場にご到着の秋篠宮ご夫妻。
競技は阿賀下をお迎えして始まりまし
た。、村長を通じて、会場地・高郷村
民にねぎらいのお言葉がありました。



「たかさと」の交流は ボート物語の受発信から。

ボートのメッカ、『おぎ
の』。旧会津藩の船道
であった阿賀川は、新

世紀の「会津らしい個性と魅力」
づくりを先導します。

**山と河のボートの里、
小見川町と友好都市に。**

一九七三年（昭48）の千葉国
体。一般男子ナックルフォアに、
農民クルー・高郷ローイングク
ラブが出場し、スポーツ界の度
胆をぬぎました。そして、開催
地の小見川（おみがわ）町は、
「これこそ、国体本来の姿であ
る」と激賞。それは直ぐこ高

友好都市 ● 千葉県小見川町

利根川の河口堰である小見川大橋の東京
側に小見川町はあって、ボートを始め、
カヌーや水上スキーなどヘルシーな水辺
空間に恵まれています。



会津藩米の江戸送
りルートの一つに
水戸・北浦・小見
川大橋付近・利根
川上・江戸川ル
トが、あつて、会
津とはご縁の深い
地柄です。人口約
二万六千、世帯数
八千六百、面積六
一・八四平方キロ。

郷村にも伝えられて、村民は感
動、友好の芽が育ちます。高郷
村は小見川町の薦めでボートサ
ミットに参加。その後、河辺と
山国の交流を通して、一九九一
年（平成3）に友好都市締結の
はこびとなりました。一九九八
年（平成10）、小見川町で催さ
れた全国市町村交流レガッタ（第
七回）に高郷村も参加して歓迎
され、交流を深めました。

「ボート、山を漕ぐ！」 県営荻野漕艇場誕生夜話。

「ボート、山を漕ぐ」は、県営
荻野漕艇場のルーツを物語る名
言として語り継がれております。

一九五〇年（昭25）、第七回
福島国体（福島・宮城・山形3
県共催）のコース視察に訪れた

気で白波の立つ水上から現地へ
向かいます。ところが、コース
予定地では、その《白ウサギ》
は一匹も現われず、一行を驚せ
ます。

東氏は「立派なコースだ。《ボ
ート、山を漕ぐ》ということに
しよう」と語り、瀬田氏の判断
を納得して、松島湾案などを退
け、一九五二年（昭27）の国体
コースに決定します。

その後『おぎの』は、次のよ
うな輝かしいレース歴を誇り、
高郷村はボートの村里として知
られるようになりました。

一九五九（昭34）と七八（昭
53）の高校総体、八二（昭57）
と九一（平3）の社会人・実業
団：などです。

あいづたかさと！ 水面からの発信、再び。

七一クルーが集う一九五二年
（昭27）の『おぎの』国体。むし
ろ旗を掲げての応援合戦がなつ
かしい西海枝青年団の農民クル

ーの大健闘。悲喜こもごものエ
ピソードを暖める駅前旅館とき
いかち民宿群。その『感動』に魅
せられ、ボートのとりこになつ
た幾多の青年たち。そして、裏
方に徹してレースを支え続けて
きた村の仲間たち。国体効果は
計り知れないものでありました。

あれから四〇年余り。一九九
五年（平7）秋、あの歓声が再
び郷土の山河にこだまします。

村の幼馴染みが三人も選抜され
た福島選抜チームが少年少女舵
手付きフォアで優勝。九三年
（平5）全国中学選手権を制し
た高郷中女子シエルフォアのメ
ンバーたちで、村人の目の前で
再び青春の覇者となったのです。

二十一世紀は「感動」の受発
信の時代。ふるさと情報の発信
基地・村役場クルーも、交流の
更なる促進と、ふるさと人口の
増大を希って『高郷の感動』の
受発信を目指し、全国制覇の夢
をむさぼり始めます！